

ほっといんふおめーしょん

マーコールとフサホロホロチョウが仲間入り！

11月12日、川崎市夢見ヶ崎動物公園から、当園では初めての飼育となる「マーコール」のオス2頭、メス1頭と「フサホロホロチョウ」の一つがいが新しい仲間としてやってきました。マーコールは家畜ヤギの原種の一つといわれる最も大型の野生ヤギで、オスにはコルクの栓抜き状にねじれて曲がった巨大な角があり、別名ネジツノヤギともいわれています。野生では山岳地帯に住んでいることから、マーコール舎内に木でできた「大きなやぐら」を設置しました。来園後数日間は慣れない場所に緊張していたためか、3頭が一箇所に集まり、やぐらにも登ろうとはしませんでした。やはり高い場所が好きなのか、今では頻繁に登って景色を楽しんでいます。



また、フサホロホロチョウはアフリカに生息するキジの仲間ですが、空を飛ぶのは稀で、速く走ることに得意な珍しい鳥です。



また、寂しがり屋さんで、野生では20羽以上もの群れで行動しているようですが、当園のキジ舎は周りに友達が多いので、彼らにとっては安心できる場所になるはずです。

レッサーパンダと双子の赤ちゃん愛称決定＆順調に生育中！

7月13日生まれレッサーパンダ双子の赤ちゃんの愛称を広く募集したところ、おかげさまで園内応募をはじめ県内外から計777点の愛称をご応募いただきました。その中から動物園で10点を選考し、11月3日から11月7日までに来園された方々による最終決定投票を行った結果、秋田市の加藤礼奈さんの「風（ふう）」と、「陸（りく）」に決定いたしました。ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

風と陸については、前67号で「展示場デビュー」の話題を取り上げましたが、その後も順調に成育中です。

当園で初めてとなるレッサーパンダの繁殖にあたっては、子ども



の成長はもちろんですが母親（ナナ）の健康状態を特に気をつけて飼育してきました。小さくてかわいらしい赤ちゃんを、お客様にお見せすることができて本当に嬉しく思います。

まもなく完成！リフォームして新しくなったツル展示舎

昨年11月からリフォーム工事に入っていたツル舎がまもなく完成します。既存のツル舎を改良し、新たに2棟の展示舎も建設します。今までは四角い箱の展示舎で、お客さんには一方向からしかツルをお見せできませんでしたが、これからはいろいろな方向から観察できるようになります。また、スロープを設置してベビーカーや車いすでも動きやすくする予定です。



シロイワヤギのデミー静かに余生をおくっています

一時期は病気のため立ち上がることもできなくなりましたが、驚異の回復力で奇跡的に元気になったシロイワヤギのデミー。彼女は人間でたとえるならば75歳以上のおばあちゃん。視力が衰えたため、少しの物音にも



驚いてフェンスや小屋に突進するくこともしばしば。今は人があまり訪れない予備舎でゆっくりと暮らしています。シロイワヤギは寒さにめっぽう強いので、今年の冬も元気に過ごしてくれることでしょう。

ダイアナモンキー同居開始

おでこに三日月型の白い模様が特徴のダイアナモンキー。5月までウメおばあちゃん（27歳）1頭で飼育していましたが、6月から若いメス（1歳）が、そして11月からは待望のオス（9歳）がやってきました。けんかしないように同居を慎重に進め、今では3頭仲良く暮らしています。日本には20数頭しかいない貴重なサルであり、今後繁殖に努めたいと考えています。

